

北海道師範塾 塾頭通信

「教師の道」

第646号 平成25年11月21日

償却切れ老人

私自身高齢者の立場だからという訳ではありませんが、「償却切れ老人」とは随分と冷たい表現があるものです。

この「償却切れ老人」というのは、有料の老人ホームに入居している高齢者で、一時金の償却（取り崩し）が終わりかけの人をいいます。経営者側からすれば、いわゆる「儲からない」客という事になりますので、儲け優先の介護施設では、「償却切れ老人」を意図的に追い出す所も出て来ています。

介護産業は成長産業といわれていますが、そうした中で、経営者による利益を優先した事業展開の結果として行き場を失った高齢者が出現しているという現実、やり切れなさを覚えます。

入居者にしてみれば、終の棲家との思いで多額の一時金を支払って入居していますので、施設側の論理で一方的に追い出されるという事態に直面した本人や家族の困惑や苦悩は想像に難くありませんし、非常に深刻な問題だと思えます。

10月7日付の朝日新聞は、有料老人ホームを巡るトラブルを幾つか紹介しています。

<事例1>

有料老人ホームの管理費を巡り、施設側が突然「一人で入居している方の管理費を2割引き上げる」という通告があり、入居者とトラブルになっている。

施設側は強硬で、決着を諦めて退去する者も出ている。

<事例2>

有料老人ホームの経営者が変わり、引き継いだ会社が一方的に入居条件を変更したり、サービスの引き下げを通告したり、拒否すると経営から撤退すると、半ば脅しをかけてきた。

現実には、もっと深刻で問題の多い事例が山あるだろうと思えます。

こうした有料老人ホームに共通して見えて来るのは、有料老人ホームが単なる金儲けの道具でしかないという事です。

入居時に収めた一時金の償却が進み、残り資産が無くなれば、入居者は資産価値がなくなるだけでなく、その入居者がいる限り新たな入居者を確保できず、それでは新たな一時金も入らないため、施設側からすれば「出て行って欲しいお客」とい

う事になるのでしょうか。

しかし、有料老人ホームは賃貸マンションではありません。高齢者達が人生の終着駅として選択したものです。企業経営者としては利益を考えるのは当然としても、老人ホームを運営しようとするのであれば、少なくとも老人を金儲けの対象としてではなく、高齢者の生活を支援するという一番の基本を忘れてはならないと思います。

有料老人ホームを選ぶに当たって、契約書をよく確認する事位しか自己防衛の方法がないとすれば、悲しい事です。

このままでは、日本という国は、安心して最期を迎えられる国ではなくなりそうで怖いと思うのは、私だけでしょうか。（塾頭：吉田 洋一）